

広島平和記念式典小中学生派遣事業

平成21年4月1日、磐田市は『核兵器廃絶平和都市宣言』を制定し、平成22年度には、これからの時代を担う若者に「戦争」や「平和」について、実際に自分たちの目で見て感じてもらうようと、市内中学校の代表による『広島平和記念式典中学生派遣事業』をスタートさせました。

昨年度から市内23小学校の代表が加わり、総勢34人となった派遣団は、ことし69回目の「原爆の日」を迎える広島を訪れました。

彼らは、広島でどんなことを学び、感じたのでしょうか。

「平和」について、考える

7月31日(木)に行われた結団式、市内各学校を代表する34人の小中学生は、それぞれの思いを胸に集まりました。

戦争の恐ろしさや平和の大切さを、自分の目で見て感じてきたい

高木あかねさん(磐田中部小)

戦争の怖さや平和のありがたみを学び、みんなに伝えたい

藤田れもんさん(磐田北小)

戦争の悲しい出来事を学び、平和の大切さを感じていきたい

大橋健斗さん(豊田北部小)

戦争の悲惨さや、今ある平和について学んでいきたい

鶴田迪さん(豊岡北小)

核兵器の怖さや平和の尊さを学び、学校に持ち帰り、みんなに伝えていきたい

中島一星さん(竜洋中)



▲結団式では真剣な眼差しで説明を受ける

「平和」を願い、育む

8月5日(火)、広島に着き、※被爆桜の苗木を譲り受けた安田女子高校(広島市中区)を訪問した彼らは、活動の中心となっている生徒会の方から「戦争」や「平和」、「被爆桜」に対する思いを聞き、過去を風化させないように伝えることの大切さを学びました。



▲安田女子高校の方から被爆桜の説明を受ける

みんなが1本の桜を守り、育てていく高校生の姿に感動した

石川愛海さん(長野小)

毎年春に花を咲かせる被爆桜に「戦争なんかには負けない」という強い生命力を感じた

鈴木菜緒さん(福田中)

「戦争」を知り、感じる

平和記念公園周辺を見学する彼らは、原爆ドーム、平和記念資料館を訪れました。他を圧倒する原爆ドームの姿と資料館の展示に、彼らの眼差しは、より真剣なものになっていきました。

資料館の展示に「この世に戦争ほど恐ろしいものはない」と感じた

松下小夏さん(大藤小)

戦争の恐ろしさ、原爆の怖さを改めて感じる事ができた

太田遥斗さん(福田小)

被爆者の写真を見て、核兵器を持つている国が怖く感じた

乗松迅さん(豊岡東小)

多くの犠牲者がいて、今でも苦しんでいることを知った

太田優梨さん(城山中)



▲各学校などで折った千羽鶴を奉納する

※被爆桜…広島市の安田女子高等学校で生き続ける、原爆の被爆樹木に認定された貴重な桜。爆心地から約2.1kmしか離れていないにもかかわらず奇跡的に生き残った。同校生徒会が、桜の命を後世に引き継ぐため接ぎ木で増やしている。ことし3月には4本の苗木を譲り受け市内の4小学校に植樹している。

「平和」のために、祈る

8月6日(水)、彼らは被爆者や遺族代表、そして、世界68カ国の代表らと共に、平和記念公園で行われた平和記念式典に参列しました。

原爆が投下された午前8時15分の「平和の鐘」を合図に、一同は黙とうをささげました。

43年ぶりに本格的な雨となった式典には、約4万5千人の人々が参列し、平和への誓いを新たにしました。世界が注目する式典の、その中に彼らはいたのです。

式典終了後には、それまで降っていた雨が止みました。この雨は「広島」の涙雨だったのかもしれない。

平和へのメッセージ

戦争のない幸せ

家族と笑い合える幸せ

私たちの生活が

どれだけ幸せなのか

考えたことがありますか

彦坂心さん (豊岡中)



▲原爆ドームを前に祈る



▲雨の中、黙とうをささげる

戦争は、より恐ろしく、平和は身近にあったのだとわかった

三浦太平さん (青城小)

悲惨な戦争の事実を以前より重く受け止めるようになった

袴田麻友さん (豊田中)

「平和」を考え、伝える

「平和」を考えるには、2日間という期間はあまりにも短く、広島が培ってきた「平和」への69年間の歩みには到底及びません。しかし、今回広島を訪問した34人は、この2日間でさまざまなものを自分の目で見て、肌で感じ、考えたはず。そして、彼らはこの経験を、家族や友人など自分たちの周りの人に伝えることでしよう。

私たちは、今こそ、彼らと共に「平和」について語り合うときではないでしょうか。

「平和」とは、

人が人のことを思いやり、助け合うこと

坂江暖さん (磐田西小)

世界中のみんなが笑い合って、「しあわせ」を感じるとき

川口結己さん (田原小)

みんなが毎日笑顔でいられて助け合う心がある世界

鈴木汐音さん (向笠小)

すべての人が幸せだと感じ、生きていたいと思えること

山口基さん (神明中)

「未来」へ、つなぐ

ことしの春、かぶと塚公園の一角で1本の桜の木が花を咲かせました。今から4年前、彼らと同じように広島を訪れた派遣団が、偶然にも安田女子高校の生徒と出会い「平和」への思いと共に託された「被爆桜」です。

今から69年前、広島で被爆した桜が、磐田の地に根付き、花を咲かせています。広島に派遣された子どもたちが持ち帰った「平和」への思いも、この「被爆桜」のように磐田に根付き、花を咲かせていくことでしよう。

来年も、再来年も、ずっとこの桜が花を咲かせていくように。



▲かぶと塚公園で花を咲かせた「被爆桜」(平成26年3月撮影)